

## 総合演習

### 授業案フォーマット

授業タイトル：自分の気持ちを相手に伝えよう。

子供の設定：

- 地域の特徴  
学校は、都心部にあり、さまざまな情報が行き交っているため、インターネットを通し子ども達が情報を入手することができる。また、街を歩くと、至る所に風紀を乱すものが存在しているため、地域住民は児童に対して、注意を払わなければならない、環境にある。  
外国人労働者が多く、そして低賃金労働者も多い状況で、経済格差が生じている。  
共働きの家庭も多く学童に入っている児童が 1/3 を占める。  
個人で、携帯電話を保有している率が 56%、ほとんどの家庭にインターネット環境が備わっているため、それらを使って連絡やコミュニケーションを図る子どもが多い。  
その背景として、中学受験を希望する家庭が多く、習い事や塾に通っているため帰宅が夜遅くなるため、子ども安全確保のために携帯電話を持たせている家庭がほとんどである。
  - 学年  
小学校六学年
  - 子供達の構成  
男子 15 人 女子 17 人  
うち 2 人 在日外国人児童
    - ・在日ブラジル人児童：来日 3 年目。日常会話程度の日本語を話すことができる。国語の学習においては取り出し学習にて日本語の学習を行っているが、他教科においては通常学級での学習を進めている。話しかけられれば、会話に入ることができるが、引っ込み思案な性格なので、自分から話しかけることは少なく、孤立してしまう。
    - ・在日フィリピン人児童：来日 2 年目。日常会話において、相手が日本語で何を言っているのか理解することはできるものの、自分の言葉で表現することができない。主要科目においては取り出し学習をおこなっているため、クラスでの学習機会が少ない。積極的な性格なので、クラスの児童に話しかけるものの、日本語で表現できないため、孤立してしまう傾向にある。
- ※ 2 人とも、授業以外の時間では、学級内で孤立してしまう場面がよく見受けられる。

教師の問題意識：

最近、学級での子どもたちの会話において、相互理解がなされていないように感じる。例えば、“ウザい”という言葉が発端に起きるいざこざがよくある。“ウザい”という言葉には、“面倒くさい”“腹が立つ”“うるさい”などといった多数の意味が存在するようであるが、その所在を明らかにすることなく、負のイメージを伝える言葉として使っているため、言われた側は言った側とは、どちらかが期限を損なうような異なる解釈をしていることが多い。

学級の中には小さいグループがいくつも存在し、各グループの交流はあまり見られない。各グループには、グループ内の児童にしか解釈できないような話題や言葉が散在するが、児童たち自身はそれがグループ独自のものであることを理解しておらず、それに対する詳しい説明はしようとししない。このように、外国人児童との会話の中でも、自分たちがよく使う言葉（若者言葉）を理解できているかをよく確認しないでつかっているため、上述したように、外国人児童が遊びの場面などで孤立してしまう場面が見うけられる。自分が感じていることを相手も同じように感じていると思っているため、異なった解釈から、いざこざが生じ、グループ間に溝がある。

また、保護者からも「子どもが学校での出来事を話してくれない。」という意見が多くあがっており、家庭でもコミュニケーション不足も起きている。

学級には、障がいをもつ児童はいないが、積極的にお互いにかかわろうとする態度がみられない。

授業目的：（目に見えなくても構いません）

- ☆クラスの中に、自分以外にどんな友だちがいるかを知る。
- ☆協調性を養うと共に、コミュニケーションの大切さに気付かせる。
- ☆コミュニケーションの質を上げていく。

子供達の到達目標：（目に見える具体的なものにします）

1. 言葉以外のコミュニケーションツールをいくつかあげることができる。
2. 1.で挙げたコミュニケーションツールについて、良かった点、難しかった点を挙げることができる。
3. 相手が伝えたいことを理解し、理解したことを他人に対して表現することができる。
4. 体験を通して、感じたこと、気付いたことを発表することができる。
5. 状況や場面に応じて、コミュニケーションツールを選択し、表現することができる。（長期目標）

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要

（達成目標をクリアするのに必要なだけの授業を計画します）

| 授業回数  | テーマ                 | 各授業での子供達の具体的な達成目標                                                                                                           |
|-------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1回    | 自分のまわりのコミュニケーションツール | ・言葉以外にどのようなコミュニケーションツールがあるかを挙げるができる。<br>・挙げたツールで、人間の感情を伝える体験をし、良かった点・難しかった点をワークシートにまとめることができる。                              |
| 2回    | 感情を伝える体験をしよう。       | ・挙げたツールで、人間の感情を伝える体験をし、良かった点・難しかった点をワークシートにまとめることができる。                                                                      |
| 3回・4回 | 友だちに発表しよう           | ・言葉以外のコミュニケーションツールを選んで伝言ゲームを行い、相互的にある事項について、伝え合うことができる。<br>・体験を通してどのように感じたかワークシートにまとめることができる。<br>・ワークシートにまとめた内容を発表することができる。 |
| 5回    | コミュニケーションツールの作成     | ・自分たちでコミュニケーションツールを作ってみる。                                                                                                   |
| 6回    | 体験して、みんなにつたえよう      | ・自分たちで作ったコミュニケーションツールを体験してみる。                                                                                               |

本時の授業：上記の表の \_\_\_\_1\_\_\_\_ 回目の授業（模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします）

本時の授業でのポイントや指導上の注意点：

- ・体験するにあたり、児童が主体的に活動し、感受性を豊かにする。
- ・体験から、児童によってあげられたコミュニケーションツールと教師側の伝えたいコミュニケーションツールについて学ぶ。（表情と身振り手振りというのは、日常のコミュニケーションにおいて、相互理解を円滑に進めるものであるため、必ず理解、体験を行わせる。）
- ・体験の時間を多くさせるようにするが、そのときに集中力が散漫にならないように注意を配る。

授業方法：なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

- ・児童の意見を中心に活動を進めていくため、活動したことを文字に残すことにより、学んだことを言語化して整理でき、今後の生活における「生きる力」の基礎を育てる。
- ・体験学習で扱う内容は、人との間における、空気の読みあいについて重要なスキルであるとともに、自分の内なる感情を他人に伝えるツールなので教材としてより良い題材である。
- ・良かった点・悪かった点を挙げるにより、実生活でのコミュニケーションの場で、状況に応じてどのコミュニケーションツールを選択するかを児童自身に考えさせる。

本時の授業：

| 流れ | 教師の指示内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教師の動きなど                                                                                                         | 時間   |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 導入 | <p>・今後の授業の説明(コミュニケーションについて)</p> <p>T 写真を見せる。(標識)<br/>「これは何を伝えているでしょうか。」<br/>S「とまれ」</p> <p>T 写真を見せる。(手のサイン)<br/>「このサインは何を伝えているでしょうか。」<br/>S「なんだろ。」「わからない」<br/>T「日本ではこのサインと同じ意味だよ。(手のサイン)」<br/>S「祈っている。」「お願いしている。」<br/>T「このサインはアメリカで wish、願い時のサインです。」</p> <p>T 写真を見せる。(男の子)<br/>「この子は何を伝えているでしょうか。」<br/>S「悩んでいる。」「おなかがすいている。」「泣きそう。」<br/>T「いろいろなとらえ方があるね。」</p> <p>T「コミュニケーションは、簡単に言えば、相手に感情を伝えることだよ。普段みんなの使っている『話すこと』や『喋ること』以外にも、相手に対して、気持ちやあることを伝える方法はいろいろあるよね。これからの授業で自分の気持ちを伝える方法について学んでいきます。」</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              | 1人を当てて、挙げさせる。                                                                                                   | (5分) |
| 展開 | <p>・コミュニケーションツールを挙げさせる。</p> <p>T「では、グループに分かれて『ことば』つまり話すこと以外で自分の感情を相手に伝える手段や方法をいくつか挙げてみましょう。では、2分間で考えてください。」<br/>S(G) 考える</p> <p>T「はい、そこまでにしよう。<br/>各班の発表してもらいたいと思います。」<br/>S(G) 発表<br/>・文字<br/>・ジェスチャー(身振り手振り)<br/>・顔(表情)<br/>・絵<br/>・態度 etc...</p> <p>※文字は、この学習では除外。<br/>→同じ言語を使用する者同士でなければ、伝わるのが出来ないツールである。<br/>たとえば日本人通しならば、文字(日本語)を利用して、読み書きをして表現することができる。しかし、日本人と外国人となってしまうと、言語が異なるために、書いて伝えることが困難である。このことを児童に理解させるために例示する。<br/>例「おなかすいた」</p> <p>T「みんなから出た意見の中で、文字という表現方法が出てきたけれど、このことについて、ちょっと考えてみよう。<br/>では、〇くん、でてきてくれる、黒板におなかすいたときにどうやって文字で表現する？」<br/>S 黒板に『おなかすいた』と書くことが予想される。<br/>T「これだと、日本語を使用している国の人にはわかるけど、他のことばを使う人たちはわかりにくいよね？<br/>これから、大人になっていくにつれて、英語などの言語を学びます。<br/>なので、今の君たちは、日本語を学んでいるのだから、すべての人に文字のみで伝えることは、難しいよね。だから、今回は、文字以外の表現方法を使った学習にしていきたいと思います。」</p> | <p>机間巡視</p> <p>5~7分</p> <p>3~5分</p> <p>各班出た物を全部発言してもらおう。<br/>→複数班で出た意見は後のワークシートに活用する。</p> <p>5分</p> <p>机間巡視</p> |      |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                           |                            |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
|     | <p>・挙げたコミュニケーションツールを体験。</p> <p>ワークシートの配布</p> <p>T「これから、今出てきた手段を使って、人間の感情を同じグループの子に伝えてもらいます。今からカードを配るので、カードの裏に書いてあることは、自分以外に見せないようにして、待っていてください。」</p> <p>カードを配る</p> <p>T「カードの裏に、人間の感情が書いてあると思います。たとえば、〇〇君のカードに“嬉しい”と書いてあったら、〇〇君は同じグループの子に、表情だけで、その感情を伝えてもらいます。だいたい15秒くらい。」</p> <p>T「それが終わったら、〇〇君以外の子は、何の感情を伝えていたか当ててみましょう。それができたら、この活動をして良かったと思った点、難しいと思った点をワークシートに書き込みます。」</p> <p>T「そこまで終わったら、〇〇君の次の子が同じように伝えます。」</p> <p>S(G) 体験学習</p>                                                                                                                                                         |                                                                                           | 15 分                       |
| まとめ | <p>・体験したことについて、メリット・デメリットについて</p> <p>T「では、体験したことについて、各班ごとに話し合っ、ワークシートに良かった点・難しかった点についてまとめてみましょう。」</p> <p>S(G) 考察中</p> <p>T「各班ごとに、ワークシートにまとめた内容、良かった点、悪かった点をそれぞれ発表してもらいます。」</p> <p>S(G) 発表</p> <p>T「そうですね、みなさんの意見をまとめてみると、表情というのは一瞬で相手の気持ちをなんとなく察することができます。でも、相手がなぜそのような気持ちになったのかまではよくわかりませんよね。例えば、クラスでただただ泣いている人がいたら、どう思う？」</p> <p>S「悲しんでいると思う」<br/>「寂しいかもしれない」<br/>「悔しいかもしれない」</p> <p>T「そうですね、たくさんの気持ちがかながえられるよね。やはり、表情だけで相手の気持ちを理解することは難しいようです。でも、表情は相手の気持ちを判断する材料の一つであることは確かなようです。使い方を工夫すれば、相手によりよく自分の気持ちを伝えることができると先生は思います。では次回は、今日みなさんに出してもらった他の表現方法を同じように体験していきたいと思います。では、授業を終わります。」</p> | <p>様子をみて、手を止めさせる。</p> <p>各班の進路状況によって対応を変える。</p> <p>発表してもらった内容を、黒板にメリット・デメリットにわけてまとめる。</p> | <p>(10 分)</p> <p>約 5 分</p> |

評価：子供達の達成目標が達成できたかどうか、何を判断基準にするか？

何をもって、この授業の評価にするか？

- ・グループ内の発表において、自分の意見を発表し、グループ全員でワークシート（コミュニケーションツール表）を作成することができる。
- ・体験したコミュニケーションツールのメリット・デメリット（内容をできるだけ詳しく、どこが困難であり、どんな時に利用できるかなど）を、自分のワークシートに書くことができる。
- ・グループ活動（伝言ゲーム）を行い、成功ならば成功の理由を、失敗ならば失敗の理由を、グループ内でお互いに発表し、グループで理由（1つのワークシート作成）をまとめることができる。

※この授業は、今のクラスの雰囲気（問題意識）が改善の方向に向かうためのきっかけとしたい。長期目標である5は、今後のクラス内でのコミュニケーションのやりとりや家庭でのコミュニケーションの変化などを保護者からの報告や観察を通して評価していく必要がある。